

「変わり者が世の中を変える」  
～土も人も育てたい兼業農家～  
長田 江美子さん

有機農業コース第2期生（2017年8月修了）

インタビュー日 令和5年3月

有機農業をするため神戸市西区神出町に移住され、介護福祉の講師との二刀流で有機農業をしている長田さんにお話を伺いました。

～なぜ農業をしようと思ったのですか？～

親も非農家で仕事も介護業界と農業とは全く縁がなかったが、趣味として貸農園で野菜栽培を15年ほどしていた。本を読み独学で有機農業の勉強し当時センターが開催していた就農駅前講座にも参加するなどしていたが、就農を考えていたわけではなかった「そうなったらいいな」くらいに思っていた。

仕事が現場側から育成側になり、達成感のようなものを感じ始める中でこの先の人生について考え新聞で有機農業コース第2期生の募集記事を見て興味があったこと、仕事をしながら受講できたので農業を仕事にできるか見極めようと有機農業コースを受講した。



～楽農生活センターで学んでいかがでしたか～

貸農園でやっていた手間暇かけ手間を楽しむ趣味とは全然違う、色々な栽培技術や理論を知ることができ、複数の実践者から育苗など一つ一つの作業を丁寧に教わり、有機での肥料の使い方や土づくりの仕方など技術的なことが学べ、野菜がしっかりと栽培できれば職業にできそうだと思った。

研修中には農業をする決心を固め職場にも退職希望を伝えた。卒業前に研修仲間が自身が借りようと思って断念した農地の紹介を受け、地主さんと何度かお会いして、自身のやりたい農業について理解頂け貸して下さるとのことだったので、神出町で



多くの品目が栽培されているほ場

農家になった。

～農業をやってみていかがでしたか～

最初は、ちゃんと収穫ができ売れたら楽しかったが売り上げとしては何千円だった。1反の農地からどれくらいの収益になり、経費がどれくらいかかるかなど、就農して学んでいった。仕事はやめていたが前職の経験により介護福祉系の講師を務め収入があったので、2～3年は何とかかなると考えていた。ただ、年齢が理由で補助金などの支援もなく相談する場所もなかったことは少し残念だった。

農地は全て露地で2か所あり、合わせて約3.5反。初めから有機JAS認証をとろうと考えていたので、他の畑と隣接していない場所を探した。土の状態も前の借りた人が有機物をたくさん入れていたので、少し足せばいい状態だった。今も夏前に一通りの肥料を入れる程度で栽培している。



自宅下屋の管理機と草刈り機

2年目までは介護が本業で農業が副業のような感じだったが、3年目から野菜の収穫や出荷を優先していけるようになった。順調に伸びたというより栽培や出荷・販売が安定してできるようになった。

出荷先は、「BIO CREATORS」という有機野菜のセットをCSAというしくみで消費者と契約するチームに入っており、売上の約1/3で、ほかにJAを通じてスーパーのオーガニックコーナーやマルシェなどで販売している。周辺の有機農家の先輩と交流ができ、販売のことをあまり考えずにこの場所で就農したが大変助かっている。



自宅の横には小型のトラクター

～今後について教えてください～

今借りている農地が自分の手に負える上限の広さだと思っているので、この条件で新しい野菜の栽培に挑戦したり販売のスタイルも自分らしいやり方に変えていきたい。

神戸市が作った小規模な農地で農業ができるようになる「神戸ネクストファーマー制度」のように兼業農家が増え就農希望者も増えてほしい。野菜栽培をしたい人達の手助けもできたらと「BIO CREATORS」の仲間と有機農業スクールを開催し講師も任せてもらった。また、令和5年度は兵庫楽農センターの親子農業体験教室のインストラクターとして参加する。稲

や黒大豆の栽培技術が足りないので、同じタイミングで自分のほ場でも栽培して、参加者と一緒に勉強したいと考えている。

就農してから思ったが、西区周辺のように有機実践者が多くいる地区は他にないと思うのでこれから生かせることがあればいいと思う。健康について、正しい知識や違いなど沢山の人を知ることが大切。今はイメージが先行して有機は高いとも思われているし、逆に有機を求める人は慣行栽培の農産物を避ける。有機でも質が良くないものもあれば、慣行で質が高いものも沢山あるし、「有機か慣行か」という選択ではないと思う。



このままでは農業者が減って誰も作り手がなくなり 10 年後には野菜や米を買えなくなるようになるとは誰も思っていないように感じる。楽農生活センターにもそういう事を伝える場所になって欲しい。

～長田さんにとっての農業とはなんですか～

収入だけで考えるなら、農業ではなくほかの仕事をすればいい。自分たちが食べるものを作りながら、自分がやりたいことを組み合わせて土や人を育てて生きたい。家庭菜園でいいので、今から始めたい、初歩的なことを知りたいという人たちには、何かお役には立ちたい、そうして、自分達が食べるものを作りながら生産者のことを思い浮かべて暮らす人がもっと増えれば、次の世代に繋がっていくと思う。

私は誰でもできるようなやり方を広い面積でやっているだけ。変わった人だと思われながらも少しは世の中を変えていけたらいいし、私にとって有機農業は栽培方法ではなく生き方。